

2024 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 瀬川 瑞稀

〈 研修概要 〉

2025 年 2 月 25 日から 3 月 1 日まで、ホーチミンのチョーライ病院にて研修を行い、CT や MRI などの各モダリティの見学を通じて、現地の放射線技師の役割や患者対応の特徴を学びました。また、3 月 2 日から 3 月 6 日まで、フエ医科薬科大学の学生の方々との交流やフエ医科薬科大学附属病院にて研修を行い、日本やチョーライ病院との診療体制の違いを学びました。

〈 研修参加の目的 〉

今回の研修に参加した目的は二つあります。一つは、人との消極的な関わりを改善することです。患者さんやスタッフとの信頼は、積極的に関わる姿勢から始まるため、その姿勢を改善することが重要だと考えました。本研修にて積極的な交流が必須となる環境に身を置き、自然にこの苦手意識を克服したいと思いました。もう一つの目的は、海外の医療システムを学ぶことです。昨年度のベトナム研修の報告会を聞き、医療システムについて関心が高まりました。現地の医療現場を見学し、診療体制や診療放射線技師の役割について日本との違いを学び、異なる医療システムについて理解を深められると考えました。本研修を通じて、知識や考え方の幅を広げ、自分自身の技師としての目標を明確にしたいと考えました。

〈 研修で学んだこと 〉

チョーライ病院での研修

チョーライ病院の研修では、各モダリティにおいて待合室と操作室が同じ空間にあることが特徴的でした。日本の病院では、待合室と操作室が分かれていることが一般的であり、患者さんとの距離が近いことに驚きました。特に MRI の見学時に、次の患者さんが前の患者さんがベッドから降りるのを手伝っていた場面が印象に残っています。技師一人で MRI を担当しており、患者の協力が検査効率を上げるために必要なのだと思いました。しかし、これにはリスクも伴います。そのため、次の患者さんが前の患者さんの補助を行う際は、前提として補助を行う患者さんが高齢でないことや補助が可能であることを確認してから行っていました。このように、患者さん同士でサポートし合う方法では、転倒や事故のリスクが生じる可能性があるため、技師の方は必要に応じて補助に参加し、安全性を確保していました。技師の人数や業務体制に応じて、効率的な検査の進め方には様々な工夫があるのだと思いました。



▲ チョーライ病院での臨床実習

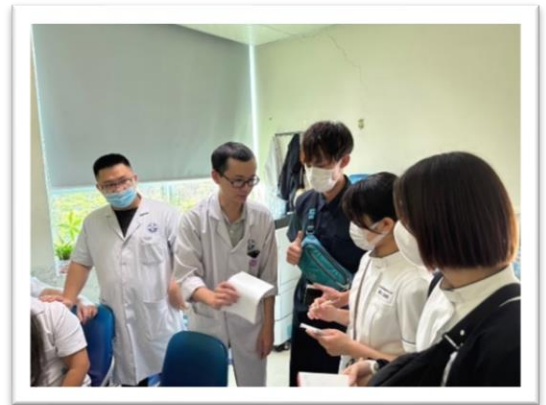
フエ医科薬科大学附属病院での研修

フエ医科薬科大学附属病院の研修では、足と膝関節のポジショニングを実際に行いました。ポジショニング方法は大学で学んだ通りでしたが、患者さんを目の前にすると角度の設定を忘れてしまったり、説明が上手くできなかったりと、実践での難しさを感じました。特に患者さんにポジショニングについて説明するためには、技術的な知識が確実でないと自信を持って伝えることができないと実感しました。現地の技師さんは、動かしてほしい部位を言葉で伝えるだけでなく、手で触れながら具体的に伝えていました。私も技師さんに倣いながら、患者さんに動かしてほしい部位を指したり、自分の体で表現したりと工夫しながら伝えました。撮影が順調に進んだときは嬉しく感じ、ほかの撮影でも自信を持って対応できるようになりたいと思いました。

また、一般撮影検査では画像処理も体験しました。これまで本格的に操作したことがなかったため、最初はわからないことが多かったのですが、技師の方が指で示しながら操作手順を教えてください、画像調整が早くできる方法を教えてくださいと丁寧な説明を受け、操作方法を覚えていくことができました。特に胸部X線写真の画像処理は今後すぐにでも自分で行えると実感しており、技術的な自信ができました。

フエ医科薬科大学附属病院では日本と同様に PACS を使用して画像データを管理していました。しかし、ベトナムでは患者さんにフィルムを渡すことが一般的であり、これは日本との大きな違いとして挙げられます。フィルムを渡す理由としては、保険制度が関連しているとのことでした。こうした医療システムの違いも知ることができました。

一般撮影検査でシュラー撮影を行う際、技師の方と学生さんが何度も話し合いながら撮影を行っていました。撮影条件やポジショニングについて意見を交わしながら進めており、より適切な画像を撮影するために試行錯誤している様子が伝わってきました。適切な画像を得るためには、技師や学生さん同士の連携だけでなく、個々の知識や判断力が不可欠であると感じました。しかし、私には話し合いに参加できるほどの知識が不十分であると痛感しました。そのため、当事者として適切に対応するためには、知識と技術をしっかり身につけ、わからないことはすぐに確認することが大切だと考えました。私も将来技師として働く際には、チームの一員として貢献できる存在になりたいと考えています。そのためには、専門的な知識や技術の習得を継続しながら、周囲と信頼関係を築くために自分から関わる姿勢を持ち続ける必要があると感じました。



▲フエ医科薬科大学附属病院での臨床実習

ベトナムの方との交流

チョーライ病院で出会った技師さんやフエ医科薬科大学の学生さんは非常に親切で温かい方が多く、何度も助けていただきました。例えば、ホーチミンでの welcome party や farewell party では、料理の説明をしてくださったり、料理をよそってくださいたり、常に気にかけてくださいました。おすすめの観光地も教えてください、よりホーチミンを満喫することができました。フエでは、アオザイを着て1日観光を楽しみました。学生さんがアオザイに合う髪型に整えてくれたり、観光地を案内してくれたり、非常に温かいおもてなしを感じました。常に私たちを気にかけてくれたことが嬉しかったです。ベトナム料理の食べ方も丁寧に教えてくれて何度も助けてもらいました。



▲ホーチミンでの Farewell party

この経験を通じて、相手を思いやる大切さや、行動や態度で信頼関係を築く重要性を実感しました。今後は私も相手を思いやり、相手が安心できるような気遣いを大切にしたいと思いました。

さらに、大学での交流会では広い講堂で、鳴子やプレゼンテーションを行いました。想像以上に多くの学生さんや先生方が見ている中での発表だったため、かなり緊張しましたが、温かい拍手をいただけたこと、また何度も練習してきたことを思い出しながら臨んだことで、無事に終わることができました。プレゼンテーションは、初めての英語での発表ということもあり、仲間と共に何度も練習を重ねました。発表内容やスライド、英語の表現を先生に確認していただいたり、実際に発表を行って仲間同士で改善点を出し合ったりと、事前準備を徹底したおかげで、自信をもって挑むことができました。この経験を通して、改めて事前準備の大切さを実感したと共に仲間と協力しながら一つのものを作り上げていくことの楽しさを学びました。将来、技師として働く際にもこの経験を役立てたいと考えています。医療現場ではチームワークが不可欠であり、ほかのスタッフと連携しながら最善の医療を提供することが求められます。今回の経験を通じて得た協力する力や準備の重要性を、将来の実務に活かし、信頼される技師を目指したいです。



▲フエ観光



▲フエ医科薬科大学でのプレゼンテーション

〈まとめ〉

本研修を通して、多くの人と関わることができました。最初は緊張で話しかけられませんでしたでしたが、ベトナムの方々常在優しく接して下さったことで緊張が解け、次第に自分からも話しかけることができるようになりました。その結果、病院見学では質問することができ、フエの学生さんとも交流を深めることができました。また、日本とベトナムの医療体制の違いを学ぶ中で、撮影時の話し合いなど円滑なチームワークには関わり合う姿勢が不可欠であることを実感しました。自分の知識不足にも気づき、今後の学習に活かすべき課題が見えてきました。知識や技術を高めると共に積極的に周囲と連携し、患者さんやほかの医療スタッフから信頼される技師を目指して努力する意欲が高まりました。この研修で得た学びが、今後の成長の大きな糧となるよう精進してまいります。



▲フエ医科薬科大学学生との交流

〈謝辞〉

本研修において、多くの方々に支えていただきました。研修の機会を与え、引率して下さった霜村康平講師、本谷崇之助教、石田翔太助教に深く感謝いたします。また、温かく迎え入れ、貴重な学びの機会をくださったチョーライ病院やフエ医科薬科大学の皆様にも心より御礼申し上げます。さらに、共に学び合い支え合った仲間にも感謝します。この経験を活かし、今後も成長していきたいと思ひます。本研修に関わって下さった皆様に、心より感謝申し上げます。